

Iwatani

**2021年3月期
決算説明会**

2021年5月21日

岩谷産業株式会社

- 2021年3月期 決算概況
- 2022年3月期 通期業績予想
- PLAN20の達成状況について
- 事業トピックスについて

2021年3月期 決算概況

減収の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2021年 3月期 実績	2020年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2021年 3月期 通期予想
売上高	6,355	6,867	△511	6,775
売上総利益	1,768	1,762	+6	-
営業利益	299	287	+12	247
営業外損益	44	35	+8	29
経常利益	344	322	+21	276
市況要因を除く 経常利益	326	325	+0	276
親会社株主に 帰属する 当期純利益	232	209	+22	173

売上高増減

総合エネルギー △173
産業ガス・機械 △158
マテリアル △130
自然産業 △33
その他 △15

2020年3月期通期実績 6,867

2021年3月期通期実績 6,355

△511 (△7.5%)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved. 3

売上高は、主に新型コロナウイルスの影響により工業分野向け主力商品の販売が減少したことに加え、LPガス輸入価格が低位に推移したことで、前期に比べ511億円減収の6,355億円となりました。

511億円の内、総合エネルギー事業で173億円のマイナスとなっておりますが、この内、100億円は、効率的で安定的なLPガス調達を目的として行っている、利益には影響のない海外でのバーター取引の減少によるものです。

売上総利益は、LPガスの市況要因が前年と比べて改善したことや、消費者向け商品の販売が増加したことで、前期比6億円増益の1,768億円となりました。

増益の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2021年 3月期 実績	2020年 3月期 実績	前年差 (増減額)	2021年 3月期 通期予想
売上高	6,355	6,867	△511	6,775
売上総利益	1,768	1,762	+6	-
営業利益	299	287	+12	247
営業外損益	44	35	+8	29
経常利益	344	322	+21	276
市況要因を除く 経常利益	326	325	+0	276
親会社株主に 帰属する 当期純利益	232	209	+22	173

営業利益増減

20年3月期
通期実績

21年3月期
通期実績

総合
エネルギー

産業ガス
・機械

マテリアル

自然産業

その他

△20

△3

+33

+2

+0

+12
(+4.4%)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

営業利益ですが、コロナ禍により、旅費交通費などが減少したことから販管費が6億円減少し、前期比12億円増益の299億円となりました。

市況要因が改善したことや消費者向け商品の販売が増加したことなどから、総合エネルギー事業、マテリアル事業は増益となりましたが、新型コロナウイルスのマイナス影響等により、産業ガス・機械事業、自然産業事業では、減益となりました。

営業外損益は、水素ステーション運営の補助金や水素関連プロジェクトの助成金などが増加したことにより、収益改善となり、経常利益は、前期比21億円増益の344億円となりました。また、当期純利益は、前期比22億円増益の232億円となりました。

この結果、全ての利益項目において、2年連続で過去最高益となりました。

LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ） **Iwatani**

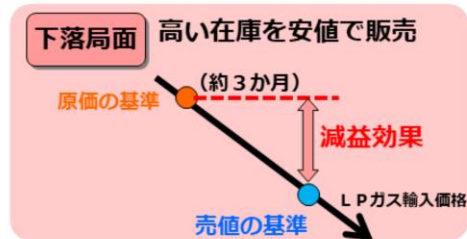
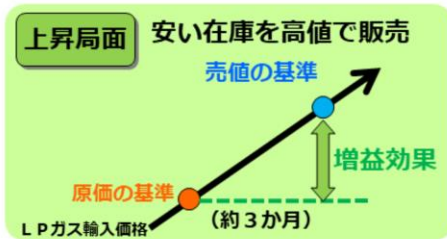
- 前提** ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動 ②輸入～販売の期間は約3ヶ月

卸売価格 ∝ LPガス輸入価格
(中東玉 (CP) と米国玉 (MB) で構成)



LPガス輸入価格が変動 → 短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

5

続いてセグメント別の状況について説明させていただきますが、まず、LPガスの輸入価格の変動が業績に与える影響について、簡単に説明いたします

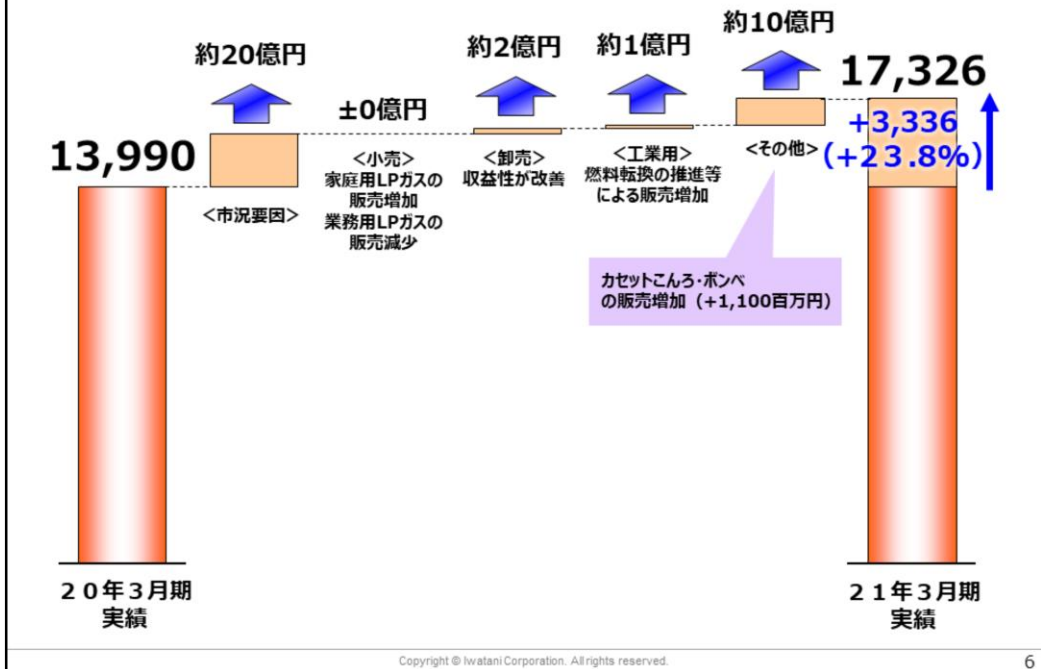
当社はLPガスを中東と米国から輸入しており、中東からの輸入価格を「コントラクト プライス」、略してCP(シーピー)と呼び、米国からの輸入価格を「montelビュー」、略してMB(エムビー)と呼んでおり、これらの価格は毎月変動いたします。当社は、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格を、CPとMBに連動する価格体系にしています。

一方、当社では在庫評価について「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで時間がかかるため、販売する際には、約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を安く売ることとなります。これらの影響を「市況要因」と呼んでおります。なお、CPの推移については、決算短信の26ページに記載しております。

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



総合エネルギー事業は、先ほど申し上げた通り、LPガスの市況要因が改善し、前期比で20億円の増益となりました。

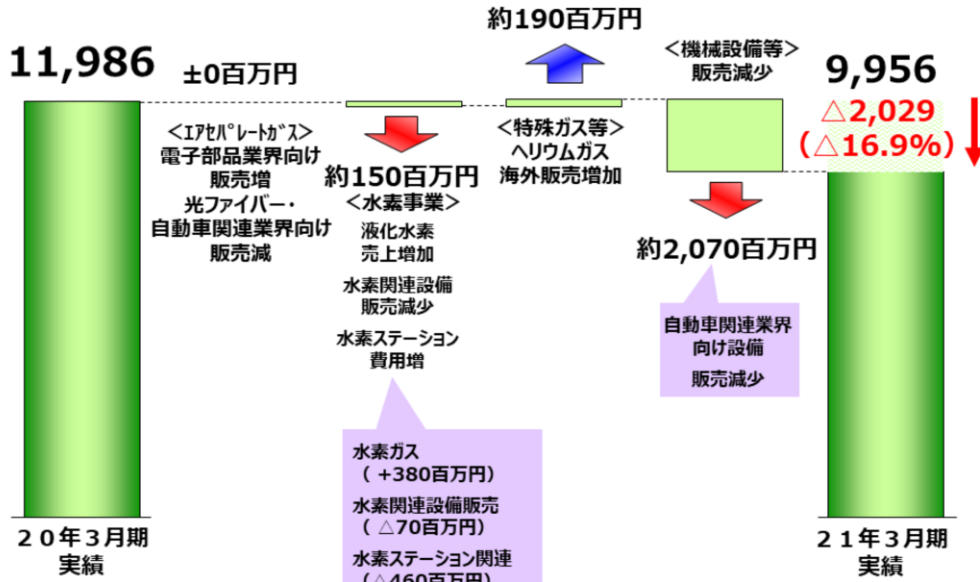
小売部門については、在宅率の上昇により、家庭用LPガスの販売が増加しましたが、業務用については、顧客の稼働率の低下により、販売数量が減少したことから、全体では横ばいとなりました。卸売部門については収益性の改善により増益となり、工業用については燃料転換の推進等により販売が増加しました。

さらに、LPガス以外についても、巣ごもり需要などにより、カセットこんろ・ボンベの販売が伸長し、その結果、当事業分野の営業利益は23.8%増益の、173億円となりました。

なお、3月末時点のLPガスの直売顧客数は、101万戸となっております。

産業ガス・機械事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

産業ガス・機械事業は、エアセパレートガスについては、光ファイバーや自動車関連業界向けの販売が減少しましたが、電子部品業界向けの販売が増加したことから、全体では横ばいとなりました。

水素事業については、液化水素の販売は伸長しましたが、水素ステーションの運営費用が増加したことなどにより、減益となりました。

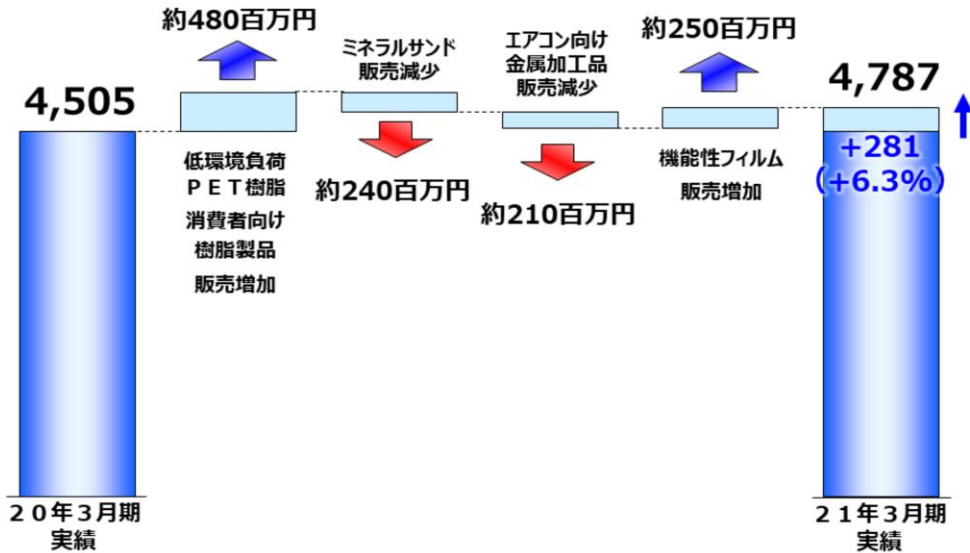
特殊ガス等については、炭酸ガスの販売は減少しましたが、半導体業界向けを中心にヘリウムの海外販売が増加し、増益となりました。

機械設備については、自動車関連業界向けを中心に、顧客の設備投資の抑制や延期等から販売が減少しました。

この結果、当事業分野の営業利益は16.9%減益の、99億円となりました。

マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

8

マテリアル事業は、
飲料向けの低環境負荷PET樹脂の販売が増加したことに加え、
消費者向け樹脂製品の販売が増加しました。

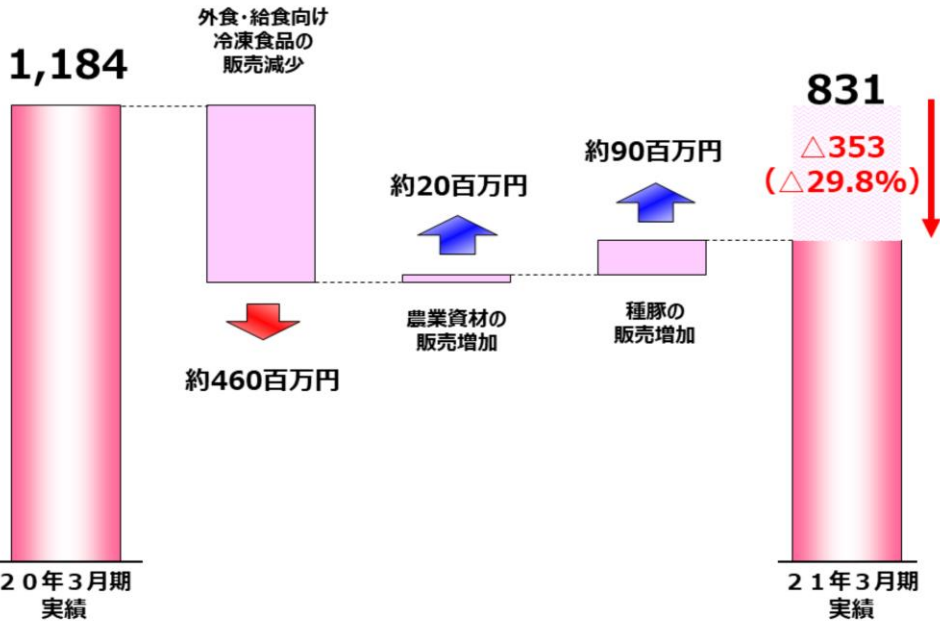
ミネラルサンドについては、国内外で自動車関連業界および鉄鋼業界の
低迷により販売が減少しました。

また、エアコン向けの金属加工品の販売は減少しましたが、
機能性フィルムの販売が増加しました。

この結果、当事業分野の営業利益は6.3%増益の、47億円となりました。

自然産業事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

9

自然産業事業は、
外食および給食業界向け冷凍食品の販売が減少しましたが、
農業資材および種豚の販売が増加しました。

この結果、当事業分野の営業利益は29.8%減益の、8億円となりました。

貸借対照表（連結）

Iwatani
(単位：億円)

	2021年 3月末	2020年 3月末	前年差 (増減額)	主な増減理由・備考
流動資産	2,196	2,037	+158	現預金および売上債権の増加
有形固定資産	1,780	1,717	+62	水素ステーション建設やLPガスセンターなどへの投資
無形固定資産	174	167	+7	
投資その他の資産	943	773	+170	保有株式の時価評価による投資有価証券の増加
固定資産	2,899	2,659	+239	
総資産	5,095	4,697	+398	
流動負債	1,709	1,911	△201	1年内償還予定の社債の減少
固定負債	866	874	△7	
負債	2,576	2,785	△208	有利子負債 961億円 有利子負債依存度 18.9%
自己資本	2,424	1,822	+601	自己資本比率 47.6%
非支配株主持分	94	88	+5	
純資産	2,518	1,911	+606	
負債・純資産	5,095	4,697	+398	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

主な財政状態についてご説明致します。

3月末の総資産は前期末比398億円増加の5,095億円となりました。

自己資本は転換社債300億円が全額株式に転換されたことなどから、前期末比601億円増加の2,424億円となり、その結果自己資本比率は8.8ポイント改善し、47.6%となりました。

有利子負債は、前期末比304億円減少し、961億円となり、有利子負債依存度は8.0ポイント改善し、18.9%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

(単位：億円)

	2021年3月期 実績	2020年3月期 実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	487	402	+85
投資キャッシュ・フロー	△288	△308	+20
フリー・キャッシュ・フロー	199	93	+105
財務キャッシュ・フロー	△70	△35	△34
換算差額等 ※1	4	△1	+6
現預金等の増減額 ※2	133	56	+77
現預金等の期首残高	251	195	+56
現預金等の期末残高	384	251	+133

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております。

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

キャッシュフローについてご説明致します。

営業キャッシュフローは、当期純利益や減価償却費の増加などにより前期比で85億円増加し、487億円の収入、投資キャッシュフローは、LPガス・各種産業ガスなどの供給体制増強のための投資、水素ステーション関連の投資などがあり、288億円の支出となり、結果、フリーキャッシュフローは199億円となりました。

また、財務キャッシュフローについては、借入金の返済などにより70億円の支出となりました。

2022年3月期 通期業績予想

2022年3月期 通期業績予想

Iwatani
(単位：億円)

	2022年3月期 業績予想	2021年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	6,261	5,626	+634	+11.3%
総合エネルギー事業	2,668	2,539	+128	+5.1%
産業ガス・機械事業	1,923	1,721	+201	+11.7%
マテリアル事業	1,342	1,118	+223	+20.0%
自然産業事業	284	203	+80	+39.8%
その他	44	43	+0	+1.3%
営業利益	320	299	+20	+6.7%
総合エネルギー事業	170	173	△3	△1.9%
産業ガス・機械事業	110	99	+10	+10.5%
マテリアル事業	53	47	+5	+10.7%
自然産業事業	12	8	+3	+44.3%
その他・調整額	△25	△29	+4	-
経常利益	365	344	+20	+6.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	243	232	+10	+4.7%

想定レート (上期) 為替 105円/\$ LPガス輸入価格 400\$/ト>
(下期) 為替 105円/\$ LPガス輸入価格 420\$/ト>

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用。2021年3月期売上高は「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出

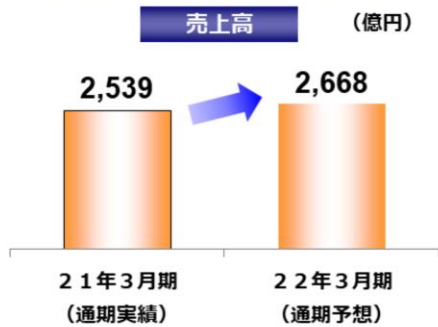
Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

13

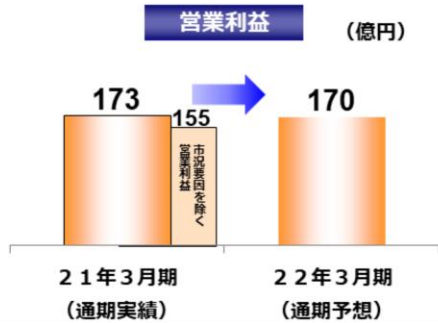
2022年3月期の連結業績予想は、
売上高は、前期比 11.3%増収の6,261億円
営業利益は、前期比 6.7%増益の 320億円
経常利益は、前期比 6.1%増益の 365億円
当期純利益は、前期比 4.7%増益の 243億円
を予定しています。

なお、2022年3月期より「収益認識基準に関する会計基準」等を適用するため、業績予想は適用後の金額となっております。
2021年3月期の売上高については当該会計基準等を適用したと仮定して算出し、増減比較しております。

なお、業績予想の前提となる為替の想定は、
1ドル105円としており、
LPガス輸入価格(CP)の想定は、
上期については1トンあたり400ドル、
下期については420ドルとしております。



※2021年3月期の売上高は、「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出



通期業績予想の達成に向けて

- ・M&AによるLPガス直売顧客数の拡大
- ・エネルギー関連機器の拡販
- ・国内外でのカートリッジガス事業の拡大、BtoC商品の拡販

業績が変動するリスク要因

- ◇ LPガス輸入価格、為替の動向
- ◇ 気温変動による販売数量への影響

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

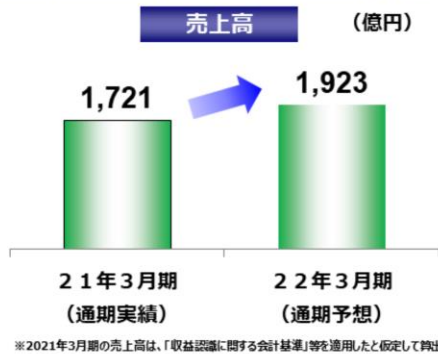
14

総合エネルギー事業は、売上高は、2,668億円で5.1%の増収、営業利益は、170億円で1.9%の減益予想となっております。前期は、市況要因により、プラス17億円の影響がありました。今期は影響を見込んでおりませんので、市況要因を除くと、営業利益ではプラス14億円、9.4%の増益予想となります。

家庭用LPガスの需要は、引き続き好調に推移すると見込んでおり、業務用・工業用LPガスの需要も回復すると想定しております。引き続きM&Aを推進し、LPガス直売顧客数の拡大を図るとともに、LPガス販売数量の増加に努めます。加えて、配送の合理化・効率化を進め、コスト削減に取り組めます。

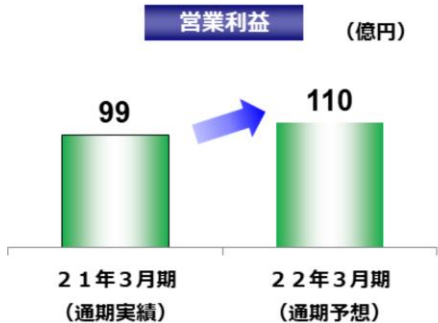
また、都市ガス顧客を含め、エネルギー関連機器の拡販を行うとともに、BtoC商品については、量販店やインターネットなどの販売チャネルの拡大に取り組めます。

カートリッジガス事業においては、引き続き底固い需要が見込まれる家庭向けに加えて、アウトドア向け商品の拡販に取り組めます。さらに、中国に加え、東南アジアや米国での海外展開を強化し、事業拡大に努めます。



通期業績予想の達成に向けて

- ・成長分野へのエアガスの拡販
- ・液化水素の新規ユーザー獲得
- ・ヘリウム の安定供給
- ・環境関連機器の拡販



業績が変動するリスク要因

- ◇ 電力料金上昇による製造コストへの影響
- ◇ 為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

産業ガス・機械事業は、
売上高は、1,923億円で11.7%の増収、
営業利益は、110億円で10.5%の増益を予想しております。

自動車業界や半導体業界の需要回復が見込まれることに加え、
次世代通信関連等の成長分野を中心に産業ガスの拡販を進めて
まいります。
また、液化水素については、引き続き、
新規ユーザーの獲得に努めてまいります。

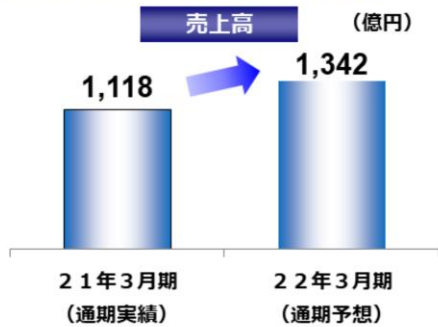
ヘリウムについては、まず世界的な需給の状況についてご説明します。
供給面では、今年度中にカタールやロシアでの新ソースの稼働開始が
見込まれていますが、フル稼働には、まだ時間がかかる見通しです。
一方で、半導体向けの需要拡大により、ヘリウムの需要量は増加し、
需給はタイトな状況になる見通しです。

当社としては、アジア・中国を中心として拡販に取り組むとともに、
高効率のヘリウム回収設備を導入したヘリウムセンターや自社所有の
コンテナを有効活用し、効率的かつ安定的な供給に努めます。

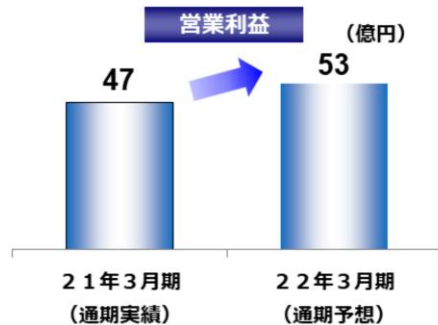
機械設備については、製造業全般で停滞していた設備投資は、
自動車業界を中心に回復基調にあることに加え、5G関連向け需要が
拡大する半導体・電子部品業界向けの引き合いは活発化しており、
引き続き伸長が見込まれます。
加えて、工場の自動化、省力化への需要の高まりを取り込むとともに、
成長が期待される環境関連分野での拡販に努めます。

マテリアル事業の見通し

Iwatani



※2021年3月期の売上高は、「収益認識に関する会計基準」等を適用したと仮定して算出



通期業績予想の達成に向けて

- ・低環境負荷PET樹脂の拡販
- ・バイオマス事業の拡大
- ・二次電池材料の拡販

業績が変動するリスク要因

- ◇資源市況の変動
- ◇為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

マテリアル事業は、
売上高が1,342億円で20.0%の増収、
営業利益は53億円で10.7%の増益を予想しております。

低環境負荷PET樹脂については、飲料用に加えてフィルム用の
堅調な出荷が見込まれるなど販売数量が増加する見通しです。

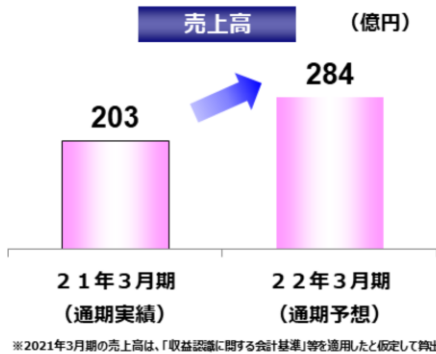
また、バイオマス事業についても、PKSに加えて新たに木質ペレットの
取り扱いを開始し、事業規模の拡大を図ります。

二次電池材料については、次世代自動車の普及が加速することを
追い風に、拡販に取り組めます。

環境分野の市場拡大を見据え、環境商品の拡販を進めるとともに、
資源事業や金属加工事業など、既存事業の拡販に努めます。

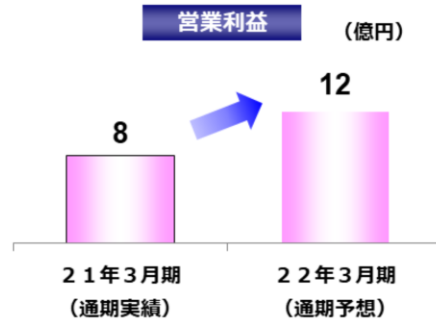
自然産業事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けて

- ・一般消費者向け冷凍食品の開発・販路開拓
- ・種豚の拡販
- ・農業・畜産設備の拡販



業績が変動するリスク要因

- ◇為替変動
- ◇原材料価格変動
- ◇天候不順

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

17

自然産業事業は、
売上高は284億円で39.8%の増収、
営業利益は12億円で44.3%の増益を予想しております。

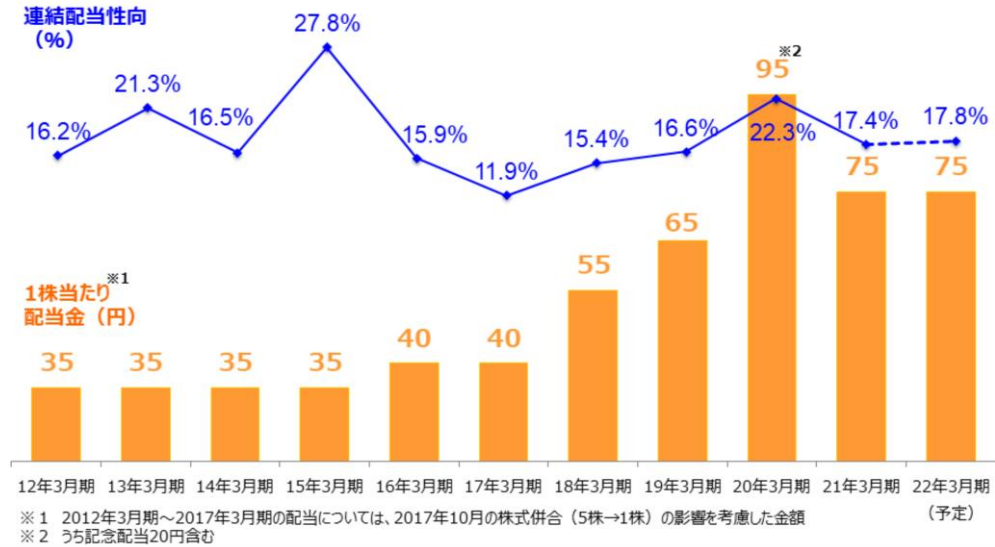
堅調な需要が見込まれる一般消費者向けの自社ブランド冷凍食品の
拡販に取り組むとともに、農業ハウス等の農業設備の拡販や、
大手養豚事業会社向け畜産設備・種豚販売の強化を図ります。

株主還元について（連結）

Iwatani

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

2020年度の配当につきましては、期初公表通り75円を予定しており、これにより配当性向は17.4%となります。
 2021年度の配当は、75円を予定しております。

今後とも業績や経営環境を慎重に考慮しながら、適正な利益還元を実施していきたいと考えております。

PLAN20の達成状況について

PLAN20の達成状況について

Iwatani

- ・全経営指標の目標を達成
- ・2020年10月に転換社債が全額株式に転換し、資本が増強

【経営指標】

項目	PLAN20 目標値	2020年度 実績	達成 可否
経常利益 [市況要因除く]	330億円	→ 344億円 [326億円]	○
ROE (自己資本利益率)	10.0% 以上	→ 10.9%	○
ネットD/Eレシオ	0.7倍	→ 0.23倍	○

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

PLAN20での経営数値目標については、「経常利益330億円」、「ROE10.0%以上」、「ネットD/Eレシオ0.7倍」を掲げておりました。

2020年度の実績は、経常利益344億円、ROE10.9%、ネットD/Eレシオ0.23倍となり、全ての目標数値を達成することができました。

PLAN20の達成状況について

Iwatani

・新型コロナウイルスの影響により、産業ガスの販売は苦戦するも、
総合エネルギー事業は目標を達成

【重要事業指標】

	2017年度 実績	2020年度 実績	PLAN20 目標値
LPガス直売 顧客数	90万戸	101万戸	100万戸
国内外 カセットこんろ・ボンベ 販売数量	こんろ 3,333千台 ボンベ 103百万本	こんろ 4,471千台 ボンベ 134百万本	こんろ 4,400千台 ボンベ 137百万本
エアセパレートガス 販売数量	15億m ³	15.5億m ³	17億m ³
液化水素販売数量	59百万m ³	67百万m ³	90百万m ³

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

21

重要事業指標ですが、
当社の主要な事業の成長を測る指標として、
「LPガス直売顧客数」、
「国内外カセットこんろ・ボンベ販売数量」、
「エアセパレートガス販売数量」、
「液化水素販売数量」の
4指標を重要事業指標に設定しておりました。

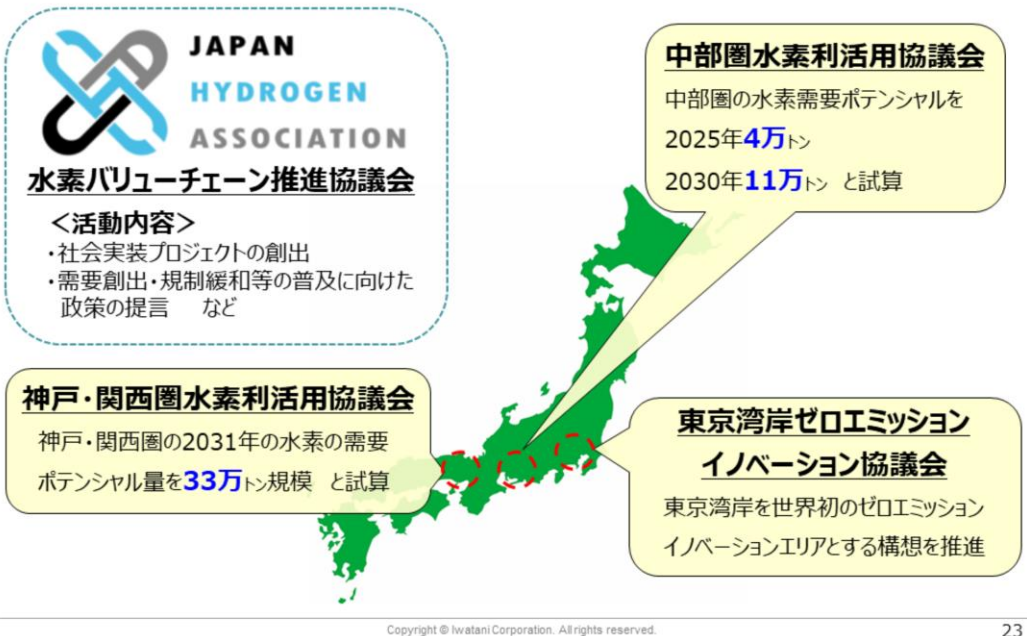
2020年度の実績としましては、LPガスの直売顧客数は、
101万戸となりました。
カセットこんろの販売数量は447万台、ボンベは1億34百万本で、
目標を概ね達成し、国内でのシェアは
それぞれ82%、63%と伸長しました。

一方、新型コロナウイルスの影響により、産業ガスの販売は苦戦し、
エアセパレートガスは15.5億m³、
液化水素は67百万m³と目標を下回りました。

なお、次期中期経営計画PLAN23につきましては、
6月に発表させて頂く予定としており、改めて皆様にご説明させて頂きたいと考えております。

事業トピックスについて

各種協議会を通じた、大規模な水素利用の推進



水素エネルギー社会に向けた取り組みについてご説明いたします。

脱炭素への取り組みが加速する中、共同代表者として参画している「水素バリューチェーン推進協議会」では、水素社会の実現に向けた政策提言を行いました。

他にも、首都圏、中部圏、関西圏の各地域で参画している協議会での活動を通じ、商用化に向けた事業モデルの検討や、国や自治体への提言を行い、大規模な水素利用への道筋をつけていきたいと考えております。

水素ステーションの整備

現在
(2021年5月時点)

国内53カ所 ※一部建設中



イワタニ水素ステーション 羽田空港



FCV・FCバスへの充填の様子

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

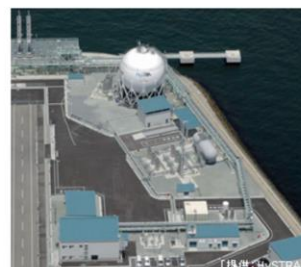
24

水素ステーションについては、
当社では現在、国内で累計53カ所の運営・整備を行っております。
米国も含め、引き続き水素ステーションの整備を進めて参ります。

CO₂フリー水素への取り組み



豪州側の水素液化・積荷基地



国内の受け入れ基地



液化水素運搬船

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

25

CO₂フリー水素への取り組みについてご説明いたします。
日本、オーストラリア間でのCO₂フリー水素サプライチェーンの構築と商用化に向けた実証試験を進めており、この度、オーストラリア側での水素積荷基地や水素精製設備が完成しました。

2021年度上期には世界初の液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」による日豪間での航行試験を実施する計画です。

また、グリーン成長戦略では2030年には水素の需要量が、300万トンになると打ち出されており、水素の需要は大きく伸長する見通しです。

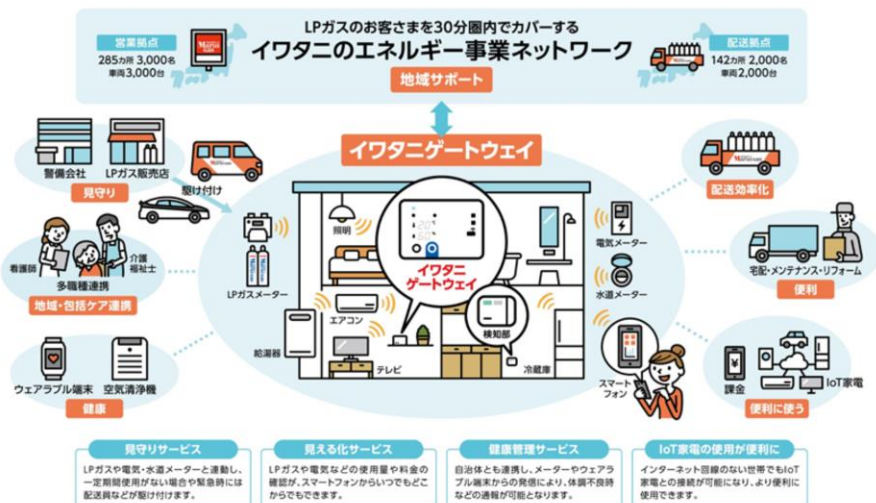
当社では、2020年度においてハイドロエッジの液化水素製造能力を1.5倍に増強しましたが、今後関東エリアにおいても液化水素の新たな製造拠点の設立を検討します。

水素の需要が増加する将来を見据え、更なる製造体制の強化を図り、水素エネルギー社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

事業化に向けた実証を完了し、順次設置を進める

IoTプラットフォーム **イワタニゲートウェイ**

ガス警報器に通信機能を付加することにより、さまざまな「モノ」をインターネットにつなぐゲートウェイ（中継基地）として機能する新技術。この実現により、お客さまの生活を支える新しいサービス・価値の提供を目指しています。



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

26

イワタニゲートウェイ構想についてご説明いたします。

当社は、家庭に設置するガス漏れ警報器等に通信機能を付加することにより、様々な「モノ」をインターネットにつなぐ当社独自のIoTプラットフォーム「イワタニゲートウェイ」の構築を進めています。

今年度は、社会課題の解決に繋がる新サービスの創出に向け、新型のゲートウェイの設置を、7月より順次進めます。

高齢化や過疎化など、地域が抱える様々な課題の解決を通じて、スピードを上げて、エネルギー生活総合サービス事業の構築に、取り組んでまいります。

なお、先程も申し上げました通り、今年度の業績予想は増収増益を見込んでおります。

「脱炭素」が世界的に大きな流れとなる中、水素事業を中心として大きなビジネスチャンスが広がっています。事業戦略を明確にし、先行投資も行いながら、足下の業績も伸ばしていく所存です。

引き続き、ご指導賜りますよう、よろしくお願いいたします。

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 I R担当

TEL : 06-7637-3470 FAX : 06-7637-3333 Webサイト : <http://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。
当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.